

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073800197		
法人名	社会福祉法人 同朋会		
事業所名	グループホーム 同行園		
所在地 (電話番号)	福岡県糟屋郡宇美町障子岳南2丁目14番25号 (電 話) 092-933-4811		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年7月3日	評価確定日	平成 19年 10月 15日

## 【情報提供票より】(平成 19年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤 人, 常勤換算 16.2人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	RC 造り	
	4階建ての	3階 ~ 4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡輝栄会病院、はたえ歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人内の連携や併設施設があることの利点を活かし、ホームだけではできない大掛かりな夏祭り等を恒例とし地域とのつながりを深めている。利用者、職員に地域の方が多く、理念にもあるように地域との交流をしながら、利用者の望む暮らしを出来る範囲で実現できるように、入居しても行きつけだった店へ行きコーヒーを楽しんだり、買い物したりの支援を行っている。また、利用者・家族の意向をうかがい職員の自己満足やおしきせではないところのあるケアをこころがけている。職員の意見やアイデアなどをうまく引き出せるように管理者や各リーダーが遠慮なく意見ができる雰囲気を保つように努めている。利用者の思いを一番に考えながら、安全、安心に生活して頂けるよう日々努力をされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①利用者で自分で支払い出来る人にはその機会をもうけるようにした。②災害時対策を充実させるため自衛消防訓練をおこなった。③利用者の居室に温湿度計を設置した。④介護サービス計画書と日課計画表も作成し家族へ送付する。⑤併設施設の管理栄養士に利用者個人毎の必要カロリーを計算してもらっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	改善点の必要性、意義を職員が理解し、改善策を有効なものとするため職員間での話し合いをし利用者ごとにケアしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の家族全員に参加を求めており、出来る方から順番に参加してもらっている。家族からだされた疑問、意見には必ず回答しており、その都度報告内容を資料としてまとめている。また地域への働きかけとして地区の区長・組長へ行政から説明してもらうよう検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族により知りたい情報が違うためそれぞれの意向に沿って対応している。運営委員会で意見が出る事が多く、きちんと対応する事をこころがけている。ケアへの不安に対しても日々の記録を家族に開示して納得して頂いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設施設と合同の夏祭りを開催しており、地域の方への参加を呼びかけて楽しみにしてもらっている。また地域の演芸ボランティアにも参加してもらっている。利用者や職員にも地域の方が多く手作りの物を頂いたり、利用者の作品を銀行に展示させてもらったこともある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人の理念を大事にし、その方らしさを大切にし、現場の職員の意見を取り入れながら施設長がまとめ上げた理念である。地域の人が入居する事で、馴染みの人や店との交流を絶つことなく、安らかな生活環境を保ち、心あるケアに取り組んでいく。また、地域との交流を大切にし、施設併設のグループホームとして事業所の機能を地域に還元したいという思いを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3階4階合同朝礼にて理念を、全員で声に出して読んでいる。月に一度の全体会議の時には管理者を交えて、理念を実現する為のケアの方向性の話し合いを持っている。また、職員から上がってくる具体的な交流の提案も積極的に受け入れて、実現に向けての話し合いをしている。新人の職員にも配布している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい	ヘルパー2級等の実習生や小学生、中学生の体験福祉学習の受け入をしている。施設の夏祭りは恒例行事で、地域の演芸ボランティアに参加してもらい、近隣の方に声をかけて来ていただいているし、逆に地域の夏祭りに招待もされている。また、地域の方の作られた作品を頂いてホーム内に飾ったり、町内の発表会を利用者と見学に行ったりしている。利用者の行きつけだったお店にコーヒーを飲みに行くこともある。	○	地域との交流あるものの、自治会への加入はしておらず、今後の加入や方針については地域の方、職員と話しあって行きたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者より、自己評価及び外部評価を実施する意義をミーティング時に職員に話している。前回の改善点に対する改善策も実施している。職員には具体的な項目の理解を得るため職員からあがった疑問点などは職員間で回覧し、自己の行っているケアの見直し、気づきに役立てている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用し、「地域密着」の理解を行政より、区長・組長に広めて欲しいという希望を伝えた。また利用者の家族に順番に参加してもらい意見を頂いたり、月に2回相談員が利用者により困り事はないかと尋ねる機会を持ち、会議に提議できるよう配慮している。	○	現在、運営推進会議への利用者の参加はないが、利用者を主役と考え、今後少しの時間でも利用者自身が参加出来る方法がないか検討、工夫を試みている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機関紙「あゆみ」を年2回施設長か管理者が、町の健康福祉課に持って行っている。不定期な開催ではあるが、役場の福祉会議のメンバーとして施設長が参加している。また、今までは機会がなかったが、今後空き部屋がでた場合は、役場への問い合わせを行おうと思っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業・成年後見制度に関する資料をインターネット等で探して、職員が自ら勉強会を行っている。制度に関するパンフレットを施設の玄関に設置して、誰でも手に取って見られるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の度に口頭で近況報告しているが、家族によって知りたい情報が違うため家族毎の個別のニーズを把握し、その都度対応している。希望があればいつでもケース記録の閲覧をして頂いている。金銭管理も毎月の料金請求時に小遣帳のコピーを添付している。職員の移動に関しては、広報紙「あゆみ」にて写真付で新人職員の紹介を掲載している。	○	新人の職員が入った場合には初めてお会いする利用者の家族等に、何となくではなく積極的に、きちんと自己紹介をするようにしていきたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映	書類送付時に要望を伺う用紙を同封している。玄関に意見箱を設置している。家族の意見の多くは運営会議にて提議され、それに対し職員が確実に対応している。施設への不満だけでなく、利用者の家族間の不満にも相談があり、利用者の支援に繋がる事には出来る限りの強い協力をしている。契約時に苦情処理や苦情受付機関などの説明を家族に行っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動、離職は最小限に抑え馴染みの関係を保っていきたいと思っており、各ユニットリーダーを中心に親睦を深め、意見を言いやすい環境を作る努力をしている。また、夜勤の記録提出時、管理者は事務所にくる職員の観察を行い声かけし、相談しやすい状況を作っている。新人の職員が利用者と接するときは、馴染みの職員と一緒に対応し利用者の不安を取り除くよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、労働基準法の定めるところにより行っている。職員には、個々の特技や、現場でみいだされた能力を生かした行事等に取り組ませている。資格取得に関しても、勤務日の調整等を行い積極的に配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員が、人権学習をテーマにした同和問題啓発研修会に参加している。施設内でも主任勉強会を行い、事例検討等行い報告書を記入し、職員に伝達している。職員に対しても匿名の意見を記入してもらっている。それを読むと職員個々がよく勉強していることが感じられる。理念にも人権が入っており、合同ミーティングの場でも話している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、内部研修は各ユニットリーダーが参加し、夜間のミーティングにて職員に伝えている。年に3、4回の外部研修に参加していて、受講した研修の内容は内部研修にて伝達研修している。多くの職員の参加が望ましく研修の情報は随時伝えているが、勤務シフト上参加者が限られている状況。	○	伝達研修だけでなく、職員ごとの研修計画を作成していき実施していきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在宇美町内では同業者がいない。法人内での同業者との情報交換はあるが、地域での他同業者との交流は出来ていない。	○	広域連合やグループホーム連合会等と無理のない範囲でネットワーク作りをしていき、活動している所の情報を積極的に得ていきたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能であれば体験入居してもらい実際のサービスを体験して貰っている。事前に面談し、家族から入居の説明をしていただき、その後各リーダーからも説明し安心して、納得されて入居してもらっている。利用者だけでなく家族ともコミュニケーションをとり、馴染みながらのサービス利用を心がけている。事前面談や体験時に対応した職員が入居時に対応し不安を取り除き、早く馴染んでいただくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や家事活動を利用者と職員が共に行っている。日々の暮らしの中で一方的にケアするのではなく職員の知らない話や歌を教えたりしながら信頼関係を築き、利用者に頼られたり、労わられたりすることで職員はやりがいやパワーを感じており、それがより一層の支えあう気持ちを築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「笑顔が宝」という思いがあり、とにかく利用者の意向を伺うようにしている。本人家族来客から、今までの生活歴持っている力を伺い職員が把握するようつとめている。新人の職員にも伝えていき、毎月のミーティングで話あったりしている。言葉での意思の表示が難しい利用者に対しては、その表情や行動から気持ちを汲み取り、利用者と共に行動し同じ目線で利用者の考えや思いを把握できるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族に伺った意向を基に介護計画を担当職員と主任で原案を作成している。介護計画は利用者・家族の言葉を基に、いつも利用者と接している職員全員での話し合いにより必要に応じて修正し、作成している。家族にも送付し意見を伺うようしている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	計画期間や利用者の状況に応じて適宜見直しをおこなっている。毎月のミーティングで利用者の状況を話し合い見直しの必要性や振り返りを検討している。見直しを行う際にも利用者・家族の意向に沿うようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設に特別養護老人ホーム・デイサービス・居宅介護支援事業所があり、家族の希望により各施設を利用できるようにしている。また、利用者が入居時はなれた愛犬に職員と会いに行き写真を撮ってきたり、持ち山に行きたいという利用者には、近くの山に連れて行き少し歩いてもらいきついのを実感して納得してもらったりして、出来る限り望みを聞き取り、できる範囲で気持ちに沿うよう柔軟な対応をこころがけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にとって一番適切なかかりつけ医を入居時に本人、家族、職員で話し合い希望にそった選択をしている。家族にかわり通院の支援もおこない、受診時には利用者の生活のきずきを記入して持っていく。受診内容や医師の診断、アドバイスなども確実に家族、職員に伝達している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期には基本的には、医療機関や併設施設の特別養護老人ホームへ移って頂いている。その後どうしてもホームに戻りたいという希望があれば、ホームには看護師が常駐していないことや、ホームでのプラスやマイナス点を踏まえ、家族、医師、職員等との話し合いにて、臨機応変に検討する考えはある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人個人の人格を尊重し、各利用者の性格、生活歴、身体状況などに配慮して、その方にとって聞き取りやすく、分かりやすい表現や音程で対応するよう心がけている。呼び名も利用者の希望を伺っている。居室に入る時は必ず声かけしている。職員全員に個人情報保護に関する誓約書を取っている。	○	サービスステーション内にシュレッダーを購入して、不要な書類の処理を的確に行うようにしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者ごとにその出来る能力に応じて職員のおしきせや義務ではなく、ご自信が納得されてやりたいと思われることを無理のない範囲でご自身のペースでやっていただく。ちょっとした小物の洗濯が出来る方の居室には洗濯物干しを希望により設置して自宅と変わらぬような生活をおくっていただいている。職員は出来ない部分をさりげなく手伝ったり、声かけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕は職員もテーブルにて一緒に食事を取りながら、昼は台所の後始末をしながら、見守り、介助をおこなっている。また職員と利用者が一緒に献立を考え買出しから調理の下ごしらえ、調理・配膳まで行う日もある。無理にしてもらうのではなく利用者のやりたいという気持ちを大事にした支援をおこなっている。地域の方から頂いた野菜などで調理をすることもある。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴、リフト浴は週2回となっている。利用者のそれまでの入浴習慣を尊重しながら身体的負担のかからぬよう考慮している。入浴を拒否される利用者にも無理強いせず、時間をあげ声かけしたりその人にあった工夫をしている。また、皮膚の弱い方や清拭を希望される方など個別に対応している。	○	夏場に併設施設の大浴場にて銭湯の気分を味わって頂く計画あり、併設のデイの職員が入湯手形のようなものを作ってくれている。恒例行事として継続していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や話の中で伺った趣味や好みを職員が共有し日々の中で、それを活かした取り組みを行っている。男性利用者には頼りになる存在として、自信を持って貰ったり、書道の得意な方には四季を感じる書を書いてもらいフロアに飾ったり、唄や踊りの好きな方にはさりげなくその機会をつくったり、利用者がいままで培ってきたことを大切に、張りのある生活の援助をおこなっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地元の方なので自宅の近くや、行きつけだったスーパーや喫茶店などに職員と行きコーヒーを飲んだり、甘いものをたべたりと、個人個人の状態と希望を把握し本人本意で場所を選んでいる。出来る範囲で希望に沿い気分転換になるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地出入りに施錠はないが、平成15年の転倒・骨折事故以来、家族の希望もあり、3・4階の玄関は24時間施錠している。階段は自由に使えるがエレベーターは暗号ロックをかけている。全利用者と家族に説明し同意を得ている。それでも3階は閉塞感を与えないよう十分な配慮のもと換気時は開放している。いずれは開放していきたいという思いはあるが、まだその段階ではない。	○	自分が利用者として入居した場合どうなのか、という立場で考えた時、一つの取り組みとして3・4階の施錠の開放というのも考慮の必要があるのではないだろうか。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し消防訓練を行っている。自衛消防訓練も年2回行っている。また水を常に30トン備蓄している。法人内での連携体制もできていて、確約はないが近所のかたの強力も得られると思われる。	○	水だけでなく食料の備蓄にも取り組んでいきたい。また、地域からの支援として地域の方の消防訓練への参加等を、運営推進会議で議題としてあげ、地域との強力体制をつくりあげていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム内の管理栄養士がカロリー計算をして献立を作成している。一人一人の摂取カロリーは疾病、体格、運動量、年齢、性別などにより個別に算出して医師にも伝えている。食事量・飲水量の把握はおこなっているが、記録は必要な方のみしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の書いた書や額を飾ったり、観葉植物や季節の花を飾ったり、行事の写真を掲示している。浴室のいり口には暖簾をかけ温泉の雰囲気を出している。地域の方から頂いた手作りの品を各居室入り口にかけていたりして落ち着いた感じをこころかけている。廊下の照明は間接照明だが夜間は明るすぎないので、ライトの本数を減らしたりと工夫している。窓からの光やテレビの音量もこまめに職員が調整している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、クローゼット、たんす、洗面台、電灯、カーテン、エアコン、スクリーン等を備えている。利用者や家族の意向で馴染みの家具やテレビ、家族の写真、思い出の品に手作りの品等思い思いの物を持ち込まれている。馴染みの品が少ない時は家族に働きかけ持ってきて頂くこともある。誕生日やクリスマスにはホームよりプレゼントをして、それを飾ったりしている。		